

# 「美容皮膚科でどこまでできる?」

「プチ整形」という言葉を耳にしたことがあるだろうか? メスを使わず、薬剤を塗ったり注入したり、あるいは光を照射するといった方法で肌の悩みを解決する美容皮膚科のことだ。比較的リスクに取り入れられることが、いつしかそう呼ばれるようになった。そんなプチ整形を行っているところが、美容皮膚科と呼ばれる自由診療が中心のクリニックだ。

ひとくちに美容皮膚科といっても、それぞれのクリニックや医師の方針によって治療内容にかなりの差がある。内科や従来の皮膚科に近いところもあるけれど、もっと積極的な近寄り治療を得意とするところもあり、まずは正しい知識を持つことが欠かせない。

たとえスキンケアビルディングは、化粧品に使われている乳酸やグリコル酸などを肌に塗布し、不要な角質を取り去る治療。ソフトなレーザーやラジオ波などを肌に照射する方法は、使用する機械にフォトエッセシャル、サーマクール、ポラリスなど呼び名はさまざまだが、肌の深部に適度な刺激を与えることでハリを取り戻すことが

目的。いずれもエステティックサロンの延長のような感覚で取り入れることができる。

ハードなレーザーを用いた治療、もとも形成外科でアザや傷跡の治療に用いられていたが、今ではシミ取りや脱毛に利用されている。

また、筋肉の動きをコントロールしてシワがきかないようにするボトックス注射も人気。眉間や額などのシワ取りのみにあらず、筋肉のバランスを整えることで、キュッと上がった美人顔をつくったり、エラを小さくし小顔にするといったことも可能。ふくらみは打てば、キュッと締まった足指にすることもできる。

真皮を構成する成分、ヒアルロン酸を注射器で注入する治療は、シワの溝を埋めたり、鼻筋やアゴ先に入れて立体的な顔立ちをつくるのに効果的。注射器一つで、なりたい顔にフェイスデザインングできるといわれるが、さらに最近話題になっているのが、タタタと連続して肌に薬剤を浅く打ち込むメソセラピーという治療法。薬剤を要することで美肌や瘦身など、さ

さまざまな目的に合わせた治療ができる。脂肪を溶解する薬剤を二の腕や腰の上、脇腹などに打てば、薬してボディデザインングでもというわけ。

整形手術に近いものでは、頬骨の下などに特殊な細い糸を埋め込んでたるみを防ぐロシアンリフト、あるいはスレッドリフトなどと呼ばれる治療。頬の位置がわずかに数センチ上がっただけで、見た目の印象がグッと若くもめるのは周知の事実。女優たちの間でもこの方法を取り入れられている人が多いという。すばやく簡単にシミを消したりフェイスデザインングができる——。とはいえ、肌のきめ細かさや透明感といった「質」は、日頃のスキンケアでしか手に入れられないというのもまた事実。美容皮膚科の多くも「ケアをきちんとしている人は、プチ整形の効果ができやすく持ちがいい」と語る。今やエイジレスな美しさを手に入れるために、美の主治医「を持つことも大切だが、だからといって毎日のスキンケアを手抜きしたいという理由にはならないようだ。

倉田真由美・文  
 text by Mayumi Kurata  
 前川明範・写真  
 photographed by Asoni Masakazu

右:メダンで明るい印象のロビー  
 中:ポラリスやエロラなどの最新美容機器が並ぶ施術室。  
 左:「患者さんの悩みに応えるのが仕事」と語る中野あい先生

## 今週お話を伺ったのは…… あおいクリニック

あおいクリニックの中野あい先生は、年2回、海外の学会に出席され、最新情報やクリニックの収束に余念のない勉強家。「肌がきれいになったわ、とか、瘦せたんじゃない?と人から言われるような変化、そんなナチュラルな美しさが私の目標とところです。容貌がガラッと変わる様な変化を望むのは病んでいるように思います。患者さんの多くは、そういう変化を求めています」と、中野先生。女性らしいきめ細やかなカウンセリングと施術、指導に定評が。



あおいクリニック  
 東京都中央区銀座5-5-13 坂口ビル5F  
 03-3569-0686 木・日・祝休診 完全予約制  
<http://www.aoi-clinic.com>